

第1部

江戸時代の文書行政と印鑑

—「ハンコ社会」の到来とその使われ方—

東谷 智 (甲南大学文学部歴史文化学科教授、歴史文化研究センター研究代表者)

江戸時代は多くの場面でハンコを捺す「ハンコ社会」でした。江戸時代の古文書を例に、

- ① 文書作成の際にどうハンコが使われたのか、
- ② なぜほぼすべての家でハンコを持っていたのか、
- ③ 明治から現在までハンコの利用方法がどう変化したか、などについてお話しします。

第2部

江戸時代における村の運営と領主支配

—河内国渋川郡荒川村の分村運動の事例から—

東野 将伸 (岡山大学文学部人文学科講師)

江戸時代の村は、領主支配と住民の生活の双方にとって意味のある枠組みとして機能していました。

しかし、1つの村を複数の領主が分割して治めることや、村内に「組」や「郷」といったまとまりがある場合も多くみられました。

江戸時代の分村運動についての古文書を読み解きつつ、多様な村の運営方法と領主支配のあり方などについてお話しします。

関連イベントのお知らせ

古文書パネル展示: 令和2年1月28日(火)から2月4日(火)
東大阪市役所本庁舎 22階市民ギャラリー

《ギャラリートーク》 令和2年1月28日(火)13時~13時30分
東大阪市において古文書の調査、整理を行っている市史史料室の調査員による
ギャラリートークを実施します。